

## 1 趣 旨

開設以来、当所を利用した児童生徒を対象に、不登校の時期の状況や当所利用時の活動や働きかけ、利用後の状況等についてアンケート調査をすることにより、これまで当所が果たしてきた役割や支援の在り方を改めて見直す機会とするとともに、今後のより一層の支援の充実を図る。

## 2 実施状況

### (1) 送付対象者数

1,171人

※ 平成8年度から平成20年度までの間に、但馬やまびこの郷を利用した児童生徒のうち、中学校を卒業した15歳以上の者

### (2) 住所不定等による返送数

202通

### (3) 有効送付数

969通

### (4) 回答返送数

211通

※その他、手紙4通（うち、3通は回答用紙とともに）

### (5) 回答率

21.8% (211÷969×100)

### (6) 有効回答率

21.6% (209÷969×100：年齢無回答の2名を除く)

## 3 集計について

本調査の集計については、「各質問項目の単純集計」と「関係項目のクロス集計」の2つの集計を行った。

### (1) 各質問項目の単純集計

- ・年齢が無回答の者を除く、209名を対象とした。
- ・1つだけの回答を求めている質問に対して、複数の回答がある場合はそのまま集計した。
- ・自由記述については、複数の意見が含まれていた場合は複数回答として整理し、類型化しまとめた。

### (2) 関係項目のクロス集計

#### ア 分析に当たって

- ・年齢が無回答の者、7問以上無回答の者を除く205名を対象とした。また、無回答が7問未満の者・重複回答の者は統計的な処理を行った。
- ・ $\chi^2$ 検定を行い、CramerのV係数により連関の強さを確認するとともに残差分析を実施した。なお、ここで取り扱うデータは、 $\chi^2$ 検定の結果が有意もので、かつそのCramerのV係数が0.1以上であるデータ間について集計を行った。さらに残差分析は調査済み残差を用いてデータ間の差について判断した。
- ・統計解析には、SPSS for Windows 12.0 Jを使用した。

#### イ 回答の統合化

$\chi^2$ 検定を行う条件を満たすために、回答を次のように統合した。

〈問1-1〉

◇当所の利用回数

類 型	回答番号
① 1～2回	1、2
② 3回以上	3、4、5
③ 覚えていない	6

〈問 1-10〉

◇当所での経験がその後の生活に役立ったか

類 型	回答番号
① 役に立った群	1、2、3
② 役に立たなかった群	4、5
③ どちらとも言えない群	6

〈問 1-13〉

当所以外の利用施設・機関

類 型	回答番号
① 適応教室	1
② 相談機関	2、7
③ 福祉機関	3
④ 民間施設	6
⑤ 病院等	4、5
⑥ その他	8
⑦ 利用なし	9

〈問 2〉

小学校から中学校までの出席状況

類 型
① 小学校 1 年生群
② 小学校 2 年生群
③ 小学校 3 年生群
④ 小学校 4 年生群
⑤ 小学校 5 年生群
⑥ 小学校 6 年生群
⑦ 中学校 1 年生群
⑧ 中学校 2 年生群
⑨ 中学校 3 年生群

〈問 3〉

◇最初に学校を休み始めた直接のきっかけ

類 型	回答番号
① いじめ	1
② 学校での人間関係	2、3、5、7
③ 学習の問題	4
④ 学校のきまり	6
⑤ 家庭の問題	8、9、10
⑥ 病気	11
⑦ その他	12

〈問 10〉

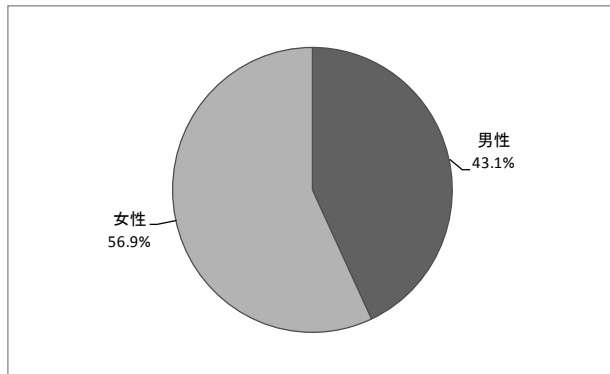
◇普段の外出状況

類 型	回答番号
① 通常群	1、2、3、4
② 準引きこもり群	5、6
③ 引きこもり群	7、8

#### 4 回答者について

##### (1) 性別

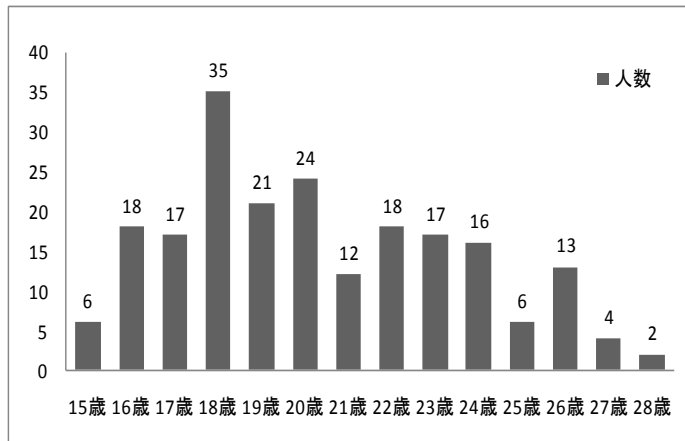
回答者のうち、男性は90名(43.1%)で、女性は119名(56.9%)である。



(n=209)

##### (2) 年齢 (平成 21 年 10 月 3 1 日現在)

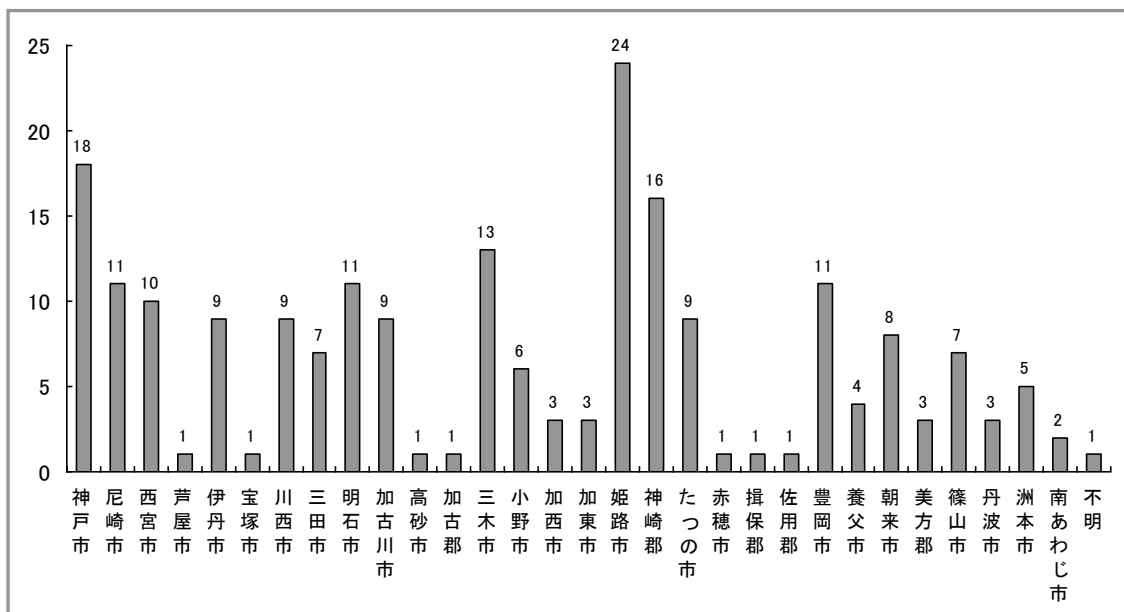
回答者のうち、「18歳」が35名で最も多く、「28歳」が2名で最も少ない。最年少と最年長の年齢差は、13歳である。



(n=209)

##### (3) 出身中学校の在籍地

回答者が卒業した中学校の所在地についてみると、「姫路」が23名で最も多く、次いで「神戸」が18名であった。



(n=209)

(4) 同居者

「一人暮らし」が 23 人で、他の者は生活をともにしている者がいる結果となっている。  
生活をともにしている者のうち、「母親」が 155 名と一番多かった。

